

継続協議項目の検討の方向性について

具体的検討項目	論点（課題、問題点等）	主な議論
⑫議員間の自由討議		
	【前提として】 ○ 自由討議を行う目的は何か。（自由討議の意義は？） ○ 自由討議とはどのようなものか。（どのような場面で、どのように行うものか。） ↓ ★議員同士の議論の必要性の再確認 ・ 議会で物事を決めるときには、議員同士で議論を尽くした上で、答えを出す。 ・ そのために、そういう機会、場をできる限り持つようにする。 ★議員同士の議論の対象の再確認 ・ 議案に対して（議案審議で） ・ 特定の政策課題に対して（政策討論で） ・ 議会独自の協議事項（議長会関係、議会行事、申し合わせ事項、…） など、さまざまなものに対して議会として答えを出すために、議員同士で議論をする。	【これまでの主な発言】 ○ 12番目の「議員間の自由討議」と15番目の「政策討論」の違いを明確にしておく必要がある。例えば、「議員間の自由討議」は議案に対して行うもので、議会内の合意形成を目指していくことを目的とするもの。「政策討論」は議会が独自に政策課題（テーマ）を設定して行うもので、政策提言などの議会独自の政策形成を目的とするもの。 ○ イメージがわからない。 ○ 議案に対する討論と政策討論とを別々に分けて考える必要がある。議案に対してお互いの考え方、意見を出し合って十分に議論し、内容に対する理解を深めていくのが議員間討論。政策討論は、政策的な問題があれば、それを提起して議員がみんなで議論していくもの。 ○ 議会は議員同士で議論して答えを出すところ。議会で物事を決めるときは、議員同士で議論を尽くすべきである。

	【これまでの論点】 …では、議案に対して（議案の審議過程では） どのようにするか？（※特定の政策課題に対し ては、次の検討項目で検討する。） ○ 議案の審議過程で自由討議を行う目的は何か。（自由討議の意義は？） ○ 現状として、議会の審議は、そのほとんどが議員による執行機関への質問で終わっており、「討論」も議員や委員の意見の言い放しという形となっている。これまで議員同士で議案の是非をめぐって討議を行うということにはなっていないかった。 ○ 自由討議はやっていくべきである。 ○ 自由討議をどのような場面で、どのように行うか。	○ 伊勢市の実態を見ても、現状では、議会の審議は、そのほとんどが議員による執行機関への質問で終わっており、議員同士で討論を行い、合意形成を目指すという形にはなっていないかった。 ○ 自由討議をすると、違った角度からの意見や自分の知らない知識等にふれることができる。 ○ 現在行っている「討論」は、議員や委員の意見の言い放しというところがある。議員同士で質疑応答をすれば、議論が深まるのではないかな。 ○ 議論を深めるということ。考え方も違えば、問題のとらえ方、視点も違う。議員間で討論すれば、内容に対する理解を深めていくことができる。 ○ 自由討議は、議案の審議過程や、個々の議員の考え方を市民に明らかにすることになる。 ○ イメージがわからない。 ○ ルールづくりを含めてじっくりと検討する必要がある。 ○ 全般にわたってするのか、範囲・議論の対象を絞ってやるのか。 ○ 議案に対して、常任委員会単位で行うのが適当ではないかな。 ○ 多岐にわたるものは、3常任委員会で連合審査的にすればよい。 ○ 自由討議のために、事前に議案に対して論点の洗い出しをするということになれば、先議に当たることにならないかな。 ○ 行う時期としては、議案の精読期間中でどうか。 ○ どの段階で、どういう形で行うのがよいか。 ○ 委員長の権限の中で、まずは形にこだわらずにやっていくのがよいのではない
--	---	--

	※上記のほかに論点はないか？	か。 ○ 今までの議会の議事の流れという既成概念にとらわれていては、新しい、伊勢市らしいものはできない。 ○ 手探りでもよいから、まずはやってみてはどうか。 ○ 試行錯誤を繰り返しながら、最もよい方法をつくりだしていけばよい。
--	-----------------------	--